宇久高インフォメーション No.9 2025

Uku High School
2025

令和7年12月19日
校長 峰　晃人

職員ペンリレー

小林　詳梧

「自分らしい動詞って何だろうね。自分を動詞で表したら何になるのかな。まあ、考えてみてよ。」

高校二年生のとき、担任の先生がふと投げかけた言葉です。そのときは「先生も疲れているのだろう」と思いながら、私はぼんやりと国語辞典をめくっていました。

動詞とは、人や物の動作や状態を表す言葉で、言い切りの形が「～う」で終わるものです。

「行く」「走る」「触る」．．．。

それらを自分に重ねてみる。すると、不思議と二つの言葉が浮かびました。

一つは「開く」。知らない世界や人の思いに触れたいから。

もう一つは「返す」。受け取ったものを、そのままにせず、誰かへ手渡したいから。

あの何気ない問いは、今も静かに、私を動かし続けています。

2025年 Uku Labo 発表会開催しました。

今回の発表会では全生徒一人ひとりが取り組んでいることを発表しました。生徒たちは、テーマ設定のきっかけや調査・実験・制作の過程、得られた結果と考察、そして次に取り組みたい課題までを、自分の言葉で丁寧に伝えました。発表後には質疑応答も行い、来場者や教員からの質問に対してその場で考えを整理し、言葉にして返す姿から、学びの深まりが感じられました。

本校では今後も、探究活動を通して培った力を、発表と対話の場でさらに磨きながら、地域や社会とつながる学びへと発展させてまいります。

Ukuサイエンスパーク情報

Ukuサイエンスパーク

NEW

海洋環境を学ぶ出前講座 マイクロプラスチックをテーマに

12/15（月）、長崎大学水産学部より准教授の金禧珍様と大学院生の木藪旬弥様をお招きし、マイクロプラスチックをテーマとした出前講座を実施していただきました。講座ではまず、マイクロプラスチックの定義や実態について学び、発生源の違いやサイズによる分類があることを確認しました。

続いて、マイクロプラスチックが海のどこに分布しやすいのか、また海洋生物への影響として「餌と誤認して誤食する可能性がある」ことなどが紹介されました。目に見えにくい粒子であっても、海の生態系に関わる課題であることを実感する機会となりました。

今後はこの学びをもとに、本校の探究活動であるUku Laboへとつなげていきます。

閲覧ありがとうございました

学年の窓News!

宇久高校の「今」をお届けします。

各学年の職員から

１年生

第１学年　出前授業～長崎大学水産学部～

１２月１５日に、長崎大学水産学部より准教授の金禧珍様と大学院生の木藪旬弥様をお招きして出前授業が開催されました。

マイクロプラスチックについての講義やプランクトンを用いた観察が行われ、生徒は身近な問題として興味をもって参加していました。

今年の出前授業は今回が最後でした。外部の企業や教育機関の方々のご講演は、生徒にとって刺激となり、新たな世界や興味関心を引き出していただく貴重な機会となりました。この場を借りて深く御礼申し上げます。（角田）

２年生

Uku Labo発表会を終えた2年生にとって、今回の発表は「一区切り」であると同時に、「次へのスタート」でもありました。これまで積み重ねてきた調査や試行錯誤を、自分の言葉で伝え切った姿には、確かな成長が感じられました。2年生のみなさん、ここからが本番です。自分の「なぜ？」を大事にしながら、仲間や地域の方々との対話を重ね、探究をより面白く、より確かなものにしていってください。来年のUku Labo発表会で、さらに進化した発表に出会えることを楽しみにしています。応援しています。（石見）

３年生

３年生は、先日開催されたUku Labo発表会で３年間の活動の集大成を発表しました。発表準備の段階から、時間がない中二人で協力し合い、先生方のご助言も取り入れながら自分たちで発表を作り上げていく姿はとても頼もしいものでした。その甲斐あって本番では、「気合」の入った背中を後輩たちに見せることができたのではないでしょうか。発表後の質疑応答で生徒たちも答えていましたが、３年間活動を継続できたのはひとえに支えて下さった皆様のおかげです。この場を借りて厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。（村里）

中村真帆さん 文部科学大臣賞受賞
佐世保市副市長へ表敬訪問・対談

「第72回 国際理解・国際協力のための高校生の主張コンクール」中央大会が東京で開催され、本校1年の中村真帆さんが文部科学大臣賞（特賞・1位相当）を受賞しました。この受賞を受け、12月8日（月）、中村さんは佐世保市役所を訪れ、副市長への表敬訪問を行いました。当日は受賞報告に加え、受賞内容に込めた思いや、離島に暮らす子どもたちの学びの可能性、将来の展望について副市長と対談を行いました。中村さんは、自身が感じてきた学びの課題や、だからこそ広げたい学びの機会について、言葉を選びながら丁寧に伝えました。副市長からは、受賞への祝意とともに、今後の挑戦を後押しする励ましの言葉が贈られ、対談は終始あたたかな雰囲気の中で進みました。

閲覧ありがとうございました